

千葉大学附属病院 市民公開講座

2012.1.22

「知っておきたいがんの話」

ここが違います！ 千葉大病院のがん診療

臨床腫瘍部  
滝口裕一



# 千葉大学附属病院とは

診療科： 29 診療科  
21 診療部

病床数： 835

業務収益： 28,777,407千円  
業務費用： 26,949,590千円  
(平成22年度)

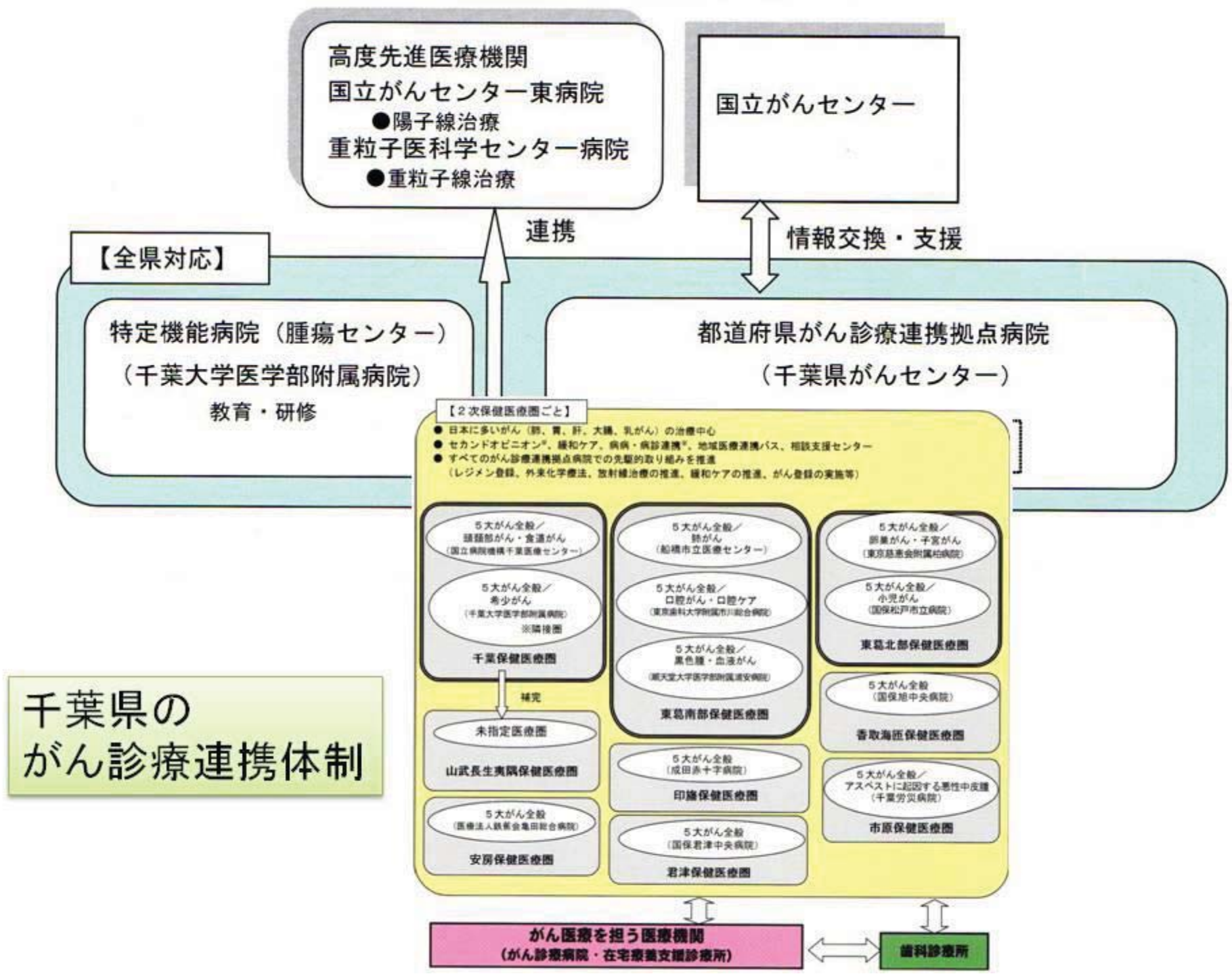
特定機能病院  
地域がん診療連携拠点病院

職員数： 1,337 名  
医師： 256  
医療技師： 167  
看護師： 783  
事務： 131  
(平成23年6月1日)



千葉県の  
がん診療連携拠点病院  
および  
高度先進医療機関





## 症例

72歳、男性。

白内障の手術を行う予定で、手術前の胸部レントゲン検査を受けたところ、直径2 cmの病変が発見された。

CT検査の結果、肺がんが強く疑われた。

3年前に狭心症と高血圧が診断され、心臓バイパス手術を受けた。現在、降圧薬と血液をサラサラにする薬を内服中。

10年前より糖尿病と診断され、インシュリンによる治療を受けている。

18歳から69歳まで1日40本の喫煙歴がある。



## 症例

眼科

72歳、男性。

呼吸器内科・外科

白内障の手術を行う予定で手術前の胸部レントゲン検査を受けたところ、直径2 cmの病変が発見された。

循環器科

CT検査の結果、肺がんが強く疑われた。

3年前に狭心症と高血圧が診断された。現在、降圧薬と血液をサラサラにする薬を内服中。

代謝・内分泌科

10年前より糖尿病と診断され、インシュリンによる治療を受けている。

18歳から1日40本のタバコを吸っていたが、69歳にやめた。

症例

72歳、男性。

白内障の手術を行う予定

タバコ →  
肺気腫・COPDは？

CT検査の結果、肺がんが強く疑われた。

糖尿病 →  
腎臓機能は？

3年前、糖尿病が診断された。現在、降圧薬と血液をサラサラにする薬を内服中。

糖尿病 →  
脳血管障害は？

インシュリンによる治療を受けている。

最近、排尿に時間がかかる  
→  
前立腺肥大は？

代謝・内分泌科

18歳から1日40本のタバコを吸っていたが、69歳にやめた。



# 症例

72歳、男性

化学療法の専門家

放射線治療の専門家

白内障の手術を受けたところで、直ぐに2 cm の病変が

がんの専門看護師

CT検査の結果、肺がんが強く疑われた。

抗がん薬による治療と放射線治療を同時に行うこと

がんの専門薬剤師

- 2) リンパ節転移あり
- 3) それ以外の臓器には転移なし

口腔ケアの専門家

→ ステージ 3

→ 化学放射線治療が必要



# 難治がんの治療のためには多職種医療専門家の育成が必要

がんプロフェッショナル養成プラン

関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点

千葉大学・筑波大学・埼玉医科大学・茨城県立医療大学  
協同プロジェクト



千葉大学・筑波大学・埼玉医科大学・茨城県立医療大学  
グループによる  
集中的がん専門家養成プロジェクト

文部科学省 平成19年度 がんプロフェッショナル養成プラン 採択

がん医療に携わる、3つの養成コースを設置。

▶ 専門医師養成コース

▶ コメディカル養成コース

▶ 専門医師等のインテンシブコース

▶ 関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点とは

▶ 4大学協同の取り組み

▶ 養成コースの紹介

▶ ニュース

▶ お問い合わせ

What's NEW

▶ 過去の一覧

2011.12.20

がんプロフェッショナル養成プランシンポジウム  
「世界で最も優れたがん治療を目指して」

>> 4大学関係者・大学院生のみ

開催日時: 2012年1月29日(日) 9:00~12:30

場所: 東京ステーションコンファレンス

>> 市民の方

開催日時: 2012年1月29日(日) 13:00~16:30

場所: 東京ステーションコンファレンス

# がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度)

がんプロフェッショナル養成プラン

関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点

千葉大学・筑波大学・埼玉医科大学・茨城県立医療大学  
協同プロジェクト

Home

関東広域多職種がん専門家  
チーム養成拠点とは

4大学協同の取り組み

養成コースの紹介

専門医師養成コース

Home > ニュース > 当グループが総合全国1位の高評価！ 文部科学省中間評価結果発表

## ニュース

### 当グループが総合全国1位の高評価！ 文部科学省中間評価結果発表

2009年に行われたがんプロ事業の中間評価結果が発表されました。当グループは最高評価のAランクであっただけでなく、全国でも総合1位の高評価をいただきました。

詳しくは、「がんプロフェッショナル養成プラン(平成19年度選定)の中間評価について(PDF:392KB)」をご覧ください。なおこのPDFファイルでは当グループに対する評価意見のみを抜粋してあります。他グループの評価結果など詳細は文部科学省ホームページをご参照下さい。

### 3. 総合評価順位

順位	整理番号	主担当大学名	プログラム名
1	6	千葉大学	関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点
2	7	東京大学	横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進
3	14	大阪大学	チーム医療を推進するがん専門医療者の育成



## がんプロフェッショナル養成プラン(平成19~23年度)

(がんプロフェッショナル養成プラン推進委員会による所見)

(総合評価) A

当初計画は順調に実施されており、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。

(コメント)

本プログラムは、当初設定した養成目標・養成計画に従って、着実に進展しており、選定委員会の審査結果への留意事項への対応も適切に行われていることから、全体としてがん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医療人の養成を図るという本事業の趣旨・目的に合致している優れた取組を行っているものとして評価できる。

また、本プログラムを契機として整備された腫瘍に関する講座やチーム医療に関する取組等は大学院教育のみならず、学部教育における腫瘍学教育の発展にもつながっており、補助事業終了後においても、プログラムの成果を今後も普遍的に継続させるため、連携大学とのがん専門の連携大学院設立を目指しているなど、本プログラムは、他のプログラムの模範となるような先駆的な取組が行われている。

一方、筑波大学における放射線腫瘍学コースやがん専門薬剤師養成コースについては、十分な養成が行われておらず、より具体的な目標・計画によって養成が行われることが期待される。

今後とも、現在の取組をより一層発展・推進させることが望まれる。

# がんプロフェッショナル 養成基盤推進プラン

## 公募要領

平成24年1月  
文部科学省



イレッサ(ゲフィチニブ)

間質性肺炎という致死的な副作用

→ 社会的問題になり、裁判で係争中

一部の患者には劇的な有効性があり、生存期間を著しく延長する



腫瘍細胞にEGFRという遺伝子の変異がある場合

分子標的治療薬

# 分子標的治療薬

## 小分子化合物

イマチニブ(グリベック)  
ダサチニブ(スプリセル)  
ニロチニブ(タシグナ)  
ゲフィチニブ(イレッサ)  
エルロチニブ(タルセバ)  
スニチニブ(スーテント)  
ソラフェニブ(ネクサバル)  
ボルテゾミブ(ベルケイド):注射  
サリドマイド(サレド)  
ラパチニブ(タイケルブ)

## 抗体薬

トラスツズマブ(ハーセプチン)  
リツキシマブ(リツキサン)  
ベバシズマブ(アバステン)  
セツキシマブ(アービタックス)  
パニツムマブ(ベクチビックス)

分子標的である遺伝子異常を検査してから、治療法を決めることが重要



非小細胞肺癌の場合

**EGFR**遺伝子異常

→ ゲフィチニブ・エルロチニブが有効

＜検査＞  
保険未承認

**EML4-ALK**遺伝子異常

→ クリゾチニブが有効

＜薬剤＞  
間もなく販売承認

臨床試験の重要性！

## まとめ

千葉大学附属病院は....

- ✓ 多数の診療科を備えた**総合力**を生かした**がん治療**を提供します
- ✓ 腫瘍外科、腫瘍内科、腫瘍放射線科、緩和治療、看護、薬学...  
など、**多数の専門家**が**がん治療**を担当します
- ✓ 高度な人材育成は全国トップの評価であり、**優れた専門家**による**がん治療**を提供します
- ✓ 多数の高度先進医療、臨床試験により、**新治療・新診断法**による**がん治療の機会**を提供します

がんにならないための予防と、早期治療が重要

がんになってしまったら、優れた治療を受けることが重要





ご静聴どうもありがとうございました